

学校教育目標	「笑顔と拍手につつまれて 夢に挑戦根岸の子」 ～自らの可能性を信じ、夢の実現をみざして、たくましくあゆみ続ける子の育成～ 【知】基礎・基本の学力を身につけ、粘り強く課題に取り組み、解決する子を育てます。 【徳】互いの良さを認め、思いやりの心と感謝の気持ちを持ち、いつでも正しく判断できる子を育てます。 【体】自分の健康に関心を持ち、進んで健康保持に努め、自らの体力を高めていく子を育てます。 【公】「根岸のまち」に関心を高め、まちの一員として、地域の役に立とうとする子を育てます。 【開】コミュニケーション力を高め、誰とでもよりよく関わろうとする子を育てます。				
	創立 149 周年 児童生徒数: 630 人	学校長 杉山 真理子 主な関係校: 根岸中学校	副校長 小林 崇	2 学期制	一般学級: 18 個別支援学級: 4

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	根岸中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<心身ともにたくましく生きる力>  自ら考え 行動する力	根岸小学校 根岸中学校	○自分の良さを発揮し、進んで学ぶ子 ○地域社会に貢献する子 ○感謝と思いやりの心をもつ子  ○小中間で授業参観の実施 ○児童生徒交流日の授業参観・部活体験 ○小中合同研修会の実施 ○小中系統カリキュラム

中期 取組 目標	○「チーム根岸」として、全職員で全校児童を育て、子どもたちの笑顔があふれる学校づくりを目指します。 ・学び合いの楽しさを味わい、粘り強く課題に取り組み、授業改善を行い、資質能力の育成を図ります。 ・挨拶を大切にするとともに、自他の良さに気づき安心して過ごせる居場所づくりを進めます。 ・自分の体力に目を向け、日常的に進んで運動する子を育てます。 ・「根岸のまち」の人との地域活動を通して、まちを愛する子を育てます。 ・組織的・効率的に業務を行うとともに、学び続ける職員集団をつくりまします。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">知</td> <td>授業改善</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教育課程委員会</td> </tr> </table>	知	授業改善	担当	教育課程委員会	①自己決定・表現の場の意図的設定、問題解決に向かう学習計画等のカリキュラムマネジメントを行い、児童が学習の主体となる授業を行う。②国語科重点研究、4年生以上の教科分担等により資質能力を明確にした授業改善を行う。③算数少人数指導、取り出し学習等で個に応じた学習を行うことで基礎学力の定着を図る。
知	授業改善				
担当	教育課程委員会				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">徳</td> <td>道徳教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>道徳部</td> </tr> </table>	徳	道徳教育	担当	道徳部	①「特別の教科 道徳」では、児童が自分自身の問題としてとらえ向き合えるよう、振り返りの充実を図る。②運動会やスマイルペアデーなどでの異学年との交流を通して、他者とのつながりを大切にし、他者を尊重する態度を養う。③「居心地の良い学校づくり」に向けて委員会や学級でめあてを決めて実践する。
徳	道徳教育				
担当	道徳部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">体</td> <td>体力向上</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>体育部</td> </tr> </table>	体	体力向上	担当	体育部	①短縄カードを活用し、意欲を高めながら年に3回短縄記録会に取り組む。集会や体育の時間、中休みなど、短縄に取り組む時間を設定することで持久力等の体力向上を図る。②学校保健委員会での「健康な生活」、体育科での保健学習、食育を推進することで自分の身体や健康について主体的に考えられるようにする。
体	体力向上				
担当	体育部				
<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">公 開</td> <td>自分づくり教育 (キャリア教育)</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>自分づくり教育</td> </tr> </table>	公 開	自分づくり教育 (キャリア教育)	担当	自分づくり教育	①「自分づくりパスポート」の積極的な活用を図り、学期や行事ごとに自己の体験を振り返ることで、自分の成長を実感し、更なる成長につなげていく。②根岸のまちや、地域教材を活用した学習を学年に応じて設定し、地域の人と関わることで、まちのよさに気づくとともに、地域に愛着をもてるようにする。
公 開	自分づくり教育 (キャリア教育)				
担当	自分づくり教育				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">いじめへの対応</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童支援委員会</td> </tr> </table>	いじめへの対応		担当	児童支援委員会	①道徳教育・人権教育・児童指導を充実させ、校内子ども会議を通して各学級で認め合いの活動を設定し、いじめの起きにくい学級風土づくりを進める。②いじめ防止対策委員会を月1回以上開催し、生活アンケートといじめ解決一斉キャンペーンを活用するなどして日常に潜むいじめの積極的認知に取り組む。
いじめへの対応					
担当	児童支援委員会				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">人材育成・ 組織運営(働き方)</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務部・メンター</td> </tr> </table>	人材育成・ 組織運営(働き方)		担当	教務部・メンター	①低・中・高学年ごとのブロックリーダーが中心となりチームで学年経営を進める中で教科指導・児童指導の両面で人材育成を推進する。②メンティの課題意識に合わせたメンター研修を設定し、モデルリーダーが指導助言にあたる。③定例教務会を実施し、情報を共有し職員全体が学校運営に参画していく。
人材育成・ 組織運営(働き方)					
担当	教務部・メンター				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">地域学校協働活動</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務部</td> </tr> </table>	地域学校協働活動		担当	教務部	①学校ホームページを定期的に更新し、教育活動の情報を積極的に発信する。②学校運営協議会、地域学校運営協議会本部、放課後学び場事業、学援隊等の地域との連携を密にする。③図書や教科指導補助等、学習ボランティア人材や地域材が生かされた教育活動を進める。
地域学校協働活動					
担当	教務部				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">特別支援教育</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童支援委員会</td> </tr> </table>	特別支援教育		担当	児童支援委員会	①定期的な職員会議・打合せ時だけでなく、必要に応じて随時、全職員が児童の共通理解を行う。②年度内2回のYPアセスメント(6月、11月)を全児童に行い、学年やブロック毎に支援検討会を実施し、課題に合った横浜プログラムを行う。③授業のユニバーサルデザインに取り組む。
特別支援教育					
担当	児童支援委員会				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">児童生徒指導</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>児童支援委員会</td> </tr> </table>	児童生徒指導		担当	児童支援委員会	①教室が落ち着き、安心して学習に参加できる学級の基礎作りとして、学びのスタンダードを学年で共通確認して指導し、くすのきルールを保護者とも共通理解を図っていく。②YPやSOSの出し方教育を進め、児童理解の打合せを活用することで問題行動等に全職員で早期発見早期対応に努める。
児童生徒指導					
担当	児童支援委員会				
<table border="1"> <tr> <td colspan="2">多文化共生</td> </tr> <tr> <td>担当</td> <td>教務部・国際教室担当</td> </tr> </table>	多文化共生		担当	教務部・国際教室担当	①国際教室を開放したり、朝会や学校だよりなどで国際教室の取組について発信したりすることで、多文化共生について理解していく機会をつくる。②日本語講師や母語支援ボランティアを積極的に活用し、母語の保持や日本語での意思疎通を図る。③LGBTQや多様性などの研修を行い、職員の理解を深める。
多文化共生					
担当	教務部・国際教室担当				

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」


豊かな心の育成推進プラン

学校教育目標	
「笑顔と拍手につつまれて 夢に挑戦根岸の子」 ～自らの可能性を信じ、夢の実現を旨として、たくましくあゆみ続ける子の育成～ 【知】基礎・基本の学力を身につけ、粘り強く課題に取り組み、解決する子を育てます。 【徳】互いの良さを認め、思いやりの心と感謝の気持ちを持ち、いつでも正しく判断できる子を育てます。 【体】自分の健康に関心をもち、進んで健康保持に努め、自らの体力を高めていく子を育てます。 【公】「根岸のまち」に関心を高め、まちの一員として、地域の役に立ちとうとする子を育てます。 【関】コミュニケーション力を高め、誰とでもよりよく関わろうとする子を育てます。	

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	
<心身ともにたくましく生きる力>  自ら考え 行動する力	<b>具体化した資質・能力</b>  自己決定する力、試行錯誤する力 他者に的確に分かりやすく伝える力・粘り強く取り組む力 自ら考え、行動する力

中期取組目標	
○「チーム根岸」として、全職員で全校児童を育て、子どもたちの笑顔があふれる学校づくりを目指します。 ・学び合いの楽しさを味わい、粘り強く課題に取り組みるように授業改善を行い、資質能力の育成を図ります。 ・挨拶を大切にするとともに、自他の良さに気付き安心して過ごせる居場所づくりを進めます。 ・自分の体力に目を向け、日常的に進んで運動する子を育てます。 ・「根岸のまち」の人との地域活動を通して、まちを愛する子を育てます。 ・組織的・効率的に業務を行うとともに、学び続ける職員集団をつくりまします。	

重点取組分野	具体的取組
<b>道徳教育</b>  担当 道徳部	①「特別の教科 道徳」では、児童が自分自身の問題としてとらえ向き合えるよう、振り返りの充実を図る。②運動会やスマイルペアデーなどでの異学年との交流を通して、他者とのつながりを大切にし、他者を尊重する態度を養う。③「居心地の良い学校づくり」に向けて委員会や学級でめあてを決めて実践する。

豊かな心に関わる本校の状況	
(1)豊かな心に関わる児童の実態 全体的に素直で落ち着いて学習に取り組み、穏やかな学校生活を送っている。コロナ禍、例年のような行事が行えないものもあったが、できる範囲で工夫し、学年やペア学年での交流の機会をもってきた。また、クラスを中心に助け合ったり、協力し合ったりする場面も多く見られた。「いじめは絶対に許さない」という学校の基本姿勢を子どもたちが自分事として捉えられるよう、年3回の校内子ども会議を開き、継続して取り組んできた。児童ふれあい委員会中心だったあいさつ運動を委員会発信で、全校で取り組むようになっていく。 次に示したのは昨年度6年生の生活調査の結果である。「自分のことが好きですか」「自分によいところはありますか」の項目の肯定的な回答が横浜市の傾向より低いことが分かる。 	
(2)これまでの学校の取組状況 ・「道徳」の授業公開を実施(昨年度は分散授業参観のため中止) ・運営委員会、ふれあい委員会を中心に全校であいさつ運動実施 ・全体計画と運動し、各教科・行事等のつながりを意識して学校の教育活動全体を通じた道徳教育	

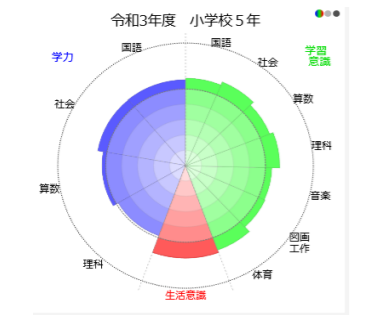
今年度の目標	
○学校中に気持ちのよいあいさつがあふれ、自他のよさを認め合う気持ちを育みます。そのために、全職員が居心地のよい学級、学校づくりを意識した教育活動を計画し、児童と共に取り組む。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	①多様な交流(ペア学年、異学年、地域など)を通して、社会の一員としての役割と責任感を自覚できるようにしていく。 ②「特別の教科 道徳」では、道徳的な諸価値についての理解を基に子どもが自分自身の問題としてとらえ、向き合えるような授業づくりを行う。振り返りの充実を図るため、振り返りの時間を十分に確保したり、振り返りカードを活用したりする。 ③指導計画に沿った、全学級の「特別の教科 道徳」の授業公開を授業参観で実施する。面談等で児童の振り返りをもとに道徳の授業での様子や保護者の意識を啓発し、連携して子どもを育む機会としていく。 ④道徳教育全体計画と運動し、本校の重点項目以外に関することも、他の教科とのつながりを考えて日々の教育活動を行っていく。 ⑤「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を活用し、学級経営に生かしていく。 ⑥児童運営委員会・ふれあい委員会の活動と関連付けて、全校であいさつ運動、校内子ども会議を行い、いじめを許さず、よりよい人間関係を築こうとする子どもの自主的、実践的な態度を育む。
下半期	①～⑥継続実施 ⑦「いじめ」についての生活アンケートを実施し、未然にいじめを防止する。 ⑧人権週間に、「居心地の良い学級・学校」づくりをめざしてという人権尊重の意識を高める活動にめあてを決めて取り組む。児童委員会も自分たちの委員会で取り組むことができる活動を計画し、実践する。

学力向上アクションプラン

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
<b>授業改善</b>  担当 教育課程委員会	①自己決定・表現の場の意図的設定、問題解決に向かう学習計画等のカリキュラムマネジメントを行い、児童が学習の主体となる授業を行う。②国語科重点研究、4年生以上の教科分担等により資質能力を明確にした授業改善を行う。③算数少人数指導、取り出し学習等で個に応じた学習を行うことで基礎学力の定着を図る。

重点取組分野	具体的取組
<b>体力向上</b>  担当 体育部	①短縄カードを活用し、意欲を高めながら年に3回短縄記録会に取り組む。集会や体育の時間、中休みなど、短縄に取り組む時間を設定することで持久力等の体力向上を図る。②学校保健委員会での「健康な生活」、体育科での保健学習、食育を推進することで自分の身体や健康について主体的に考えられるようにする。

学力向上に関わる本校の状況	
(1)学力向上に関わる児童の実態 昨年度の学力状況調査の結果によると、学校全体としては、市の平均を概ね上回る結果となった。特に、算数に関してはどの学年も市の平均を上回り、学習意欲も高いことがわかった。 これまでの根岸小学校で積み重ねてきた学習を定着させるための具体策として、学習のスタンダードを整え、教職員全体の共通理解のもと各学級が学び合う集団となっていくために、学習指導を丁寧に行ってきたことがあげられる。これにより児童は学習に集中して取り組む姿勢を身に付けることができていた。また、算数では3年生から6年生まで、習熟度別少人数学習を取り入れ、児童の習熟度に合わせた授業を行ってきた。さらに、高学年では、教科分担制を取り入れることで、授業者の教材研究や授業の質を高めてきた。他にも、全学年で重点研究として国語の研究を行ってきた。一年間を通して、教材や指導法について職員で話し合い、研究を深めてきた。 	

今年度の目標	
児童の学習規律を整えることで基礎基本の学力の定着を図る。さらに児童の自己表現力や自己決定力を伸ばしていくことで、児童の「自ら考え、行動する力」を育成する。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	学校生活の基盤となる授業や学習活動が落ち着いて進められるよう基本ルールとなるスタンダードを学年間で読み合い、徹底を図っていく。そうすることで、学びの場が落ち着き、安心して学習に参加できる学級の基礎作りを行う。その基礎の上に少人数指導や取り出し学習など個に応じた指導を充実させ、児童の基礎基本の定着や学力の向上を図る。 また、子どもたちの「自ら考え、行動する力」を育成するために、児童の自己表現や自己決定の機会を充実させていく。具体的には、児童の言語能力の育成の中で、児童が興味をもてる教材や課題を用意したり、学習計画を児童とともに作ったりするなどの取り組みを行っていく。また、重点研究教科である国語を中心に、学年内で教材分析や情報共有の機会を十分にとることで授業の質を上げ、「自ら考え、主体的に活動し、友達と豊かに関わり合う力」の育成を図る。
下半期	「自ら考え、行動する力」を身につけるための手立てとして、上半期の行動プランに加え、児童が自ら学び方を選択するなど、「自己決定の場」を用意したり、相手意識のある言語活動を充実させたりしていく。特に国語では、相手だけでなく目的、場面、場所、評価についても児童が意識して言語活動に取り組むことで、自己表現力を高めていく。 また、「評価の工夫」にも取り組んでいくことで児童の力を伸ばしていく。具体的には、単元で身につける資質能力を教職員が具体化し、それを児童に提示することで、児童がその単元で目指す姿をイメージできるようにする。さらに、子どもが自身の学びを振り返る際に、自己の学びの蓄積や自らの変容がわかるようにしていくことで、客観的な理解を促し、児童の「自ら考え、行動する力」を向上させていく。

健やかな体に関わる本校の状況	
(1)健やかな体に関わる児童の実態 ・新しい生活様式の中、全体的にとらえらると、一昨年度、昨年度に引き続き、子どもたちは十分な外遊びができていないと言えない状況ではある。 ・学校での休み時間では、遊びの内容(ボール遊び・鬼遊び・固定遊具・縄跳び等)と使用範囲(校庭で遊ぶこと)に工夫した。子どもたちはルールを守り、進んで外遊びをしている。低中学年を中心に、多くの子どもたちが校庭に出て運動をしている。 ・放課後や休日等の家庭での運動について、地域スポーツへの参加状況では、半数弱の児童がスポーツクラブに所属している。 ・家に帰ると遊びはタブレットやゲーム、読書などでほとんど運動をしないという児童も多く、体育科学習以外の時間での家庭における運動の実施状況は二極化している。 ・学区に公園が多数あるが、許可されている遊びが限定されている。学校の校庭開放を利用している児童もいる。 ・給食の残量は少ないが、好き嫌いをする児童は多い。令和3年度の学力状況調査の生活意識調査によると、朝食を食べてくる児童は約95%と高く、「早寝・早起き・朝ごはん」は定着してきているが、まだまだ改善の余地がある。	

今年度の目標	
健康について関心をもち、体力・健康な生活の向上につながることに自主的に取り組もうとする子どもを育てる。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	①年間を通して短縄記録会の取組を行い、各クラス・個人の伸び率や練習の量を提示するようにする。縄跳びカードを配付し、記録に残すようにする。自分の記録の伸びを実感させ、運動に対する意欲を持続させながら、体力の向上を目指す。 ②新体力テストや学校保健委員会の取組をもとに、自分自身の体力や生活習慣に目を向けられるようにする。 ③体育科・保健体育科では、運動特性に触れさせながら、基本的な技能を身に付けさせることで、できる喜びや楽しさを味わわせる。 ④家庭科や食育との関連を図り、バランスのよい食事について理解を深めるようにする。
下半期	⑤体育科・保健体育科では、自己評価を行い、自分の実態を明確に把握させることで、課題をもって学習に臨めるようにする。多様な運動を経験させることで、様々な動きに触れ、運動の楽しさを見つけ、生涯体育につなげられるようにする。 ⑥生活科・理科では、生命の尊さについての理解を深められるようにする。 ⑦道徳では、規範意識や礼儀を大切にしている態度、また自他の生命を尊重する態度を養う。 ⑧特別活動では、日常生活における健康問題について自らが見つけ、自分で判断し、行動する能力や態度を育む。 ⑨給食委員会による給食週間の呼びかけを行い、全校がめあてをもって給食を食べられるようにする。